

代官ばやしの背景

代官ばやしの発祥地倉敷はその昔、葵の御紋に羽振りをきかす徳川将軍家の天領地でした。

代官様は外様大名の監視や年貢米を収集する任命を受けて、江戸から赴任してまいりました。初代代官米倉兵太夫が全国に60 余りある代官所のうち備中一円から讃岐路までの行政と司法をつかさどっていた頃のことです。

この代官ばやし歌詞の中に「佐渡が1 なら2 は笠松か3 が倉敷大天領」と唄っていますが、領主の格や力の大小はあるがみずから御天領の百姓を誇りにしていたそうです。

昔から倉敷は気候風土に恵まれて秋の田んぼは稲穂が黄金色の波にかがやき、汐入川河畔は米を収める蔵が掘割の両岸に建ち並び、倉敷の豪商たちは大名に勝る羽振りをきかせていたそうです。

大原美術館、民芸館、考古館など文化施設の集まっている地区周辺には、当時の天領商人の居宅や土蔵など白壁造りの古風な建物が倉敷繁栄の歴史を今に語りついでいると思います。

江戸幕府直轄の支配地天領であった事に由来して昭和 41 年に倉敷市、倉敷商工会議所、倉敷市観光協会（当時）、倉敷商店街振興連盟が共催のもとに代官ばやし踊りができたのです。

倉敷天領夏祭り実行委員会